



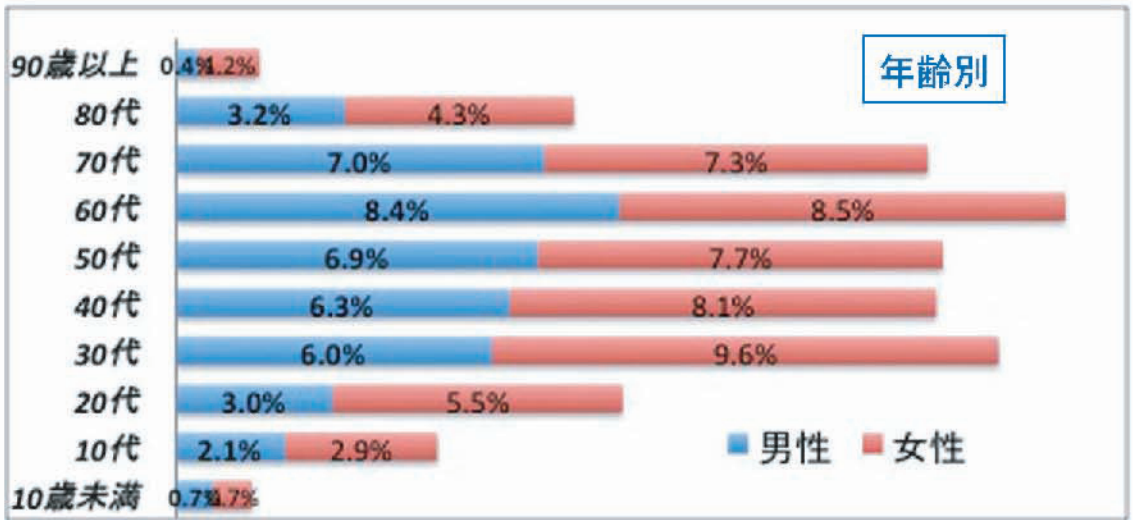
謹賀新年

旧年中は格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 書籍の出版や、診断医の増加など嬉しいニュースも多かった2010年でし
 た。2011年も更に診断精度を上げ、臨床の先生方の診療に役立つ診断を
 心がけてまいります。また本年は皮膚病理診断学のさらなる発展にも尽力し
 てまいり所存でございます。
 本年も、より一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。
 札幌皮膚病理診断科 一同

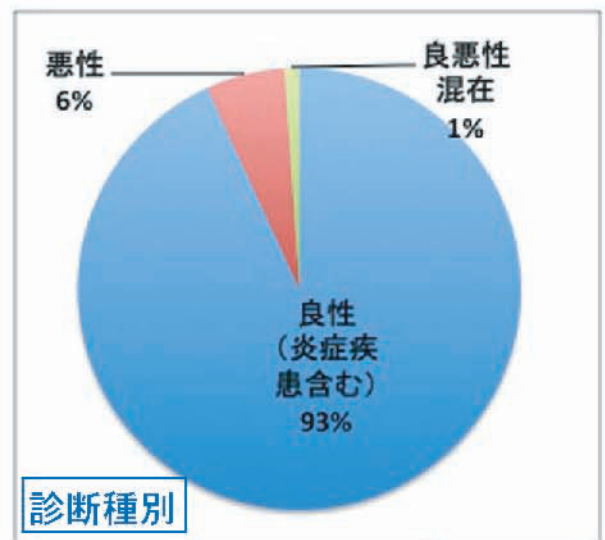
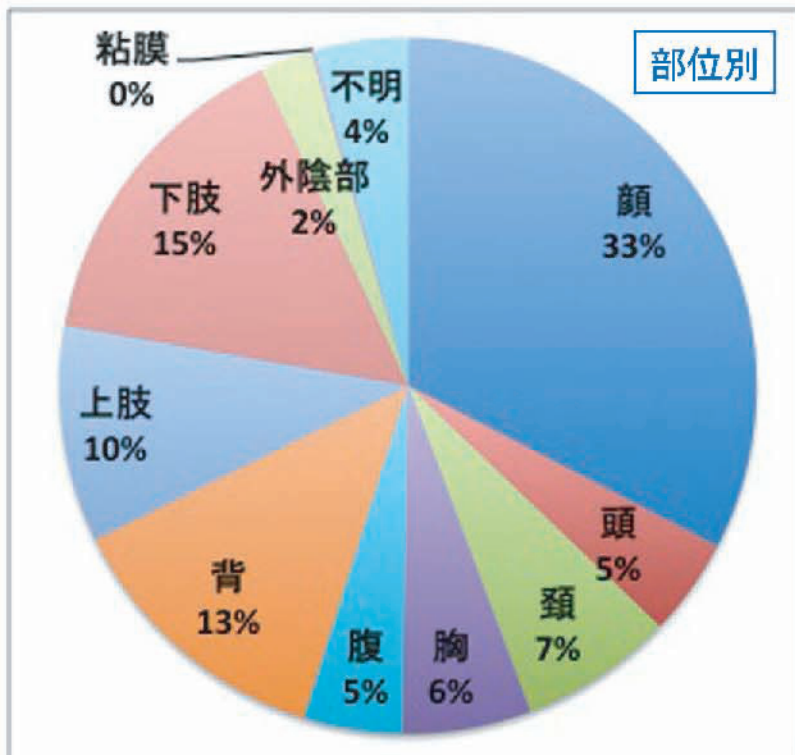
2010年 診断内訳

2010年は4万件を超える診断依頼をいただきました。
 簡単ではありますが、その内訳をご紹介します。

年齢別にみると、30歳代から急激に増加し、男性では60歳代でピークを迎えています。いずれの年代も女性の方がわずかに多い傾向があります。

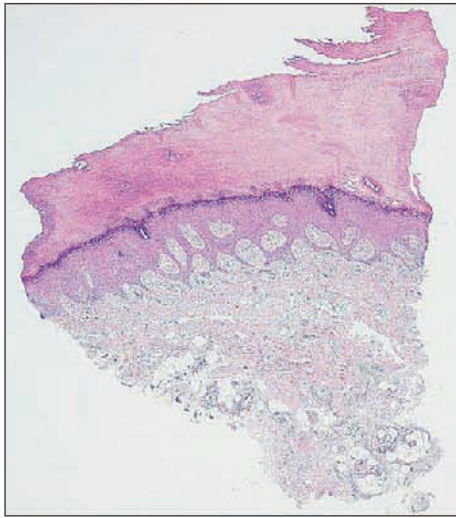


部位別では、前額、耳を含む顔部が全体の3割を占めました。
 また、良性と診断された疾患が93%と圧倒的でした。悪性疾患が6%約3千件でした。そして良悪性が混在したものも1%ありました。

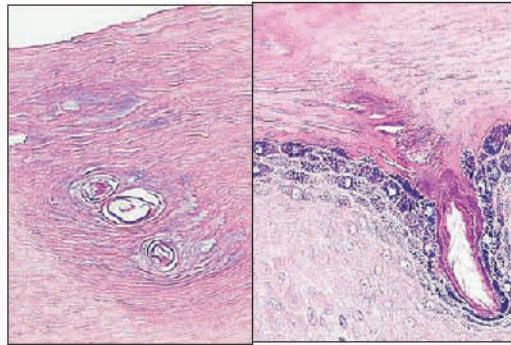


今月の症例

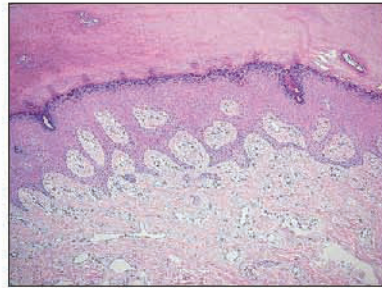
75才、女性 生検部位：右第1趾
臨床診断：皮下腫瘍 病理組織診断：胼胝：Tylosis



角層が著明に厚くなっている。この図では右にゆくに従って角層が肥厚している。



表皮内に表皮内エクリン管がある。毛包のないことと併せてこの標本が手掌か足蹠の皮膚であることが分かる。



表皮が真皮内に陥入してゆく像がないことから鶏眼：Clavusと鑑別する。



セミナー情報

討論開始!

認定NPO皮膚病理発展推進機構 主催
オーガナイザー 福本隆也先生 (奈良県立医科大学皮膚科 講師)

◆ 第4回インターネット皮膚病理診断検討会 ◆

ディスカッションの期間が、2011年1月23日(金)まで延長になりました。

注目の症例をいくつかご紹介いたします。

演題001

「鼻部に生じた有痛性紅色局面」

症例：34歳、女性

臨床診断：悪性リンパ腫または偽リンパ腫

病歴：2010年1月から鼻部に紅斑が出現し、徐々に拡大した。現在は8x8mm大。近医でのステロイド外用や抗生剤内服などの各種治療に抵抗性のため、精査目的で当科を紹介受診した。



演題003

「顔面の黄白色皮疹」

症例：56歳、女性。

病歴：数年前から右こめかみ～頬に白色調の皮疹が出現。

その後左側にも新生、拡大してきた。

粟粒大から米粒大の黄白色斑が集簇し、不整形または地図状の斑となる。



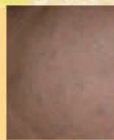
演題007

「Blueberry muffin baby」

症例：1か月、男児。

臨床診断名：血管腫

病歴：出生時より全身に淡青色結節。左側胸部の中央に石灰化を伴う青色結節を生検。真皮から脂肪織にかけてシート状に腫瘍細胞が浸潤。一部では腫瘍細胞内に管腔形成を認めるが明らかな血管構造を形成しない。腫瘍細胞はCD31のみ陽性。生後2か月で自然消退した。



皮膚病理倶楽部

検索

参加申込は、
<http://www.npo-jdpo.org>

発行：札幌皮膚病理診断科

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842

e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com> 編集担当：高野 敦子